

目的 我が国は世界でも有数の長寿国となり，しかも65歳以上の高齢人口は昭和54年には1,000万を超え，早い速度で高齢化社会に突入しつつあり，この年齢構造の変化は，生産経済，消費経済を大きく変化させるであろうといわれている。高齢者の生活の実態については明らかにされていない部分も多く，高齢化社会に対処していくためにはまず生活の実態を明らかにし，その上で今後のあり方を考えていくことは重要である。本研究は衣生活に視点を当て，その実態をとらえ，今後の衣生活を豊かに営むための指標を得ることを目的とし，その第一段階として高齢者婦人の戸外での着衣状況を観察し，分析を試みた。

方法 1. 観察時期は昭和58年10月，59年1，4，7月の晴天または曇天の日を選び，場所は高齢者の多く集まる名古屋市内のK寺，N寺の2ヶ所とした。2. 高齢者の歩行時の状態を写真およびビデオにおさめ，それを資料に各季節ともランダムに500名のサンプルを選定した。3. 着衣の分析は着衣形式，服種の組み合わせ，履物および服飾物，見かけの体型，歩行時の姿勢について行った。

結果 1. 着衣形式は季節によって差がみられた。冬期は和服形式が36%の出現率を示し，四季を通し最も高率であった。和洋折衷形式はいずれの季節も僅少であった。2. 服種の組み合わせ数は，洋服形式では向暖期の春に最も多く，70通りにもおよんだ。和服形式では組み合わせ数は少なく，夏期以外は長着にホームコートの着方が多かった。3. 寒期の衣服として襟巻き類の存在は大きく，86.1%の着用がみられた。4. 見かけの肥満体型者は春，秋期ともに40%弱出現し，和服着用者の割合は少ない傾向にあった。